

昭和 29 年度（第 1 回）

『狩猟五十年』 駒井 徳三
『中古銃に就ての注意』 今村 義逸
『爐辺獵話（原題「山家獵談」）』 大橋 鉄雄
『狩猟鳥獣の生態（写真）』 白井 邦彦

昭和 30 年度（第 2 回）

『地藏堂』 飛田 穂洲
『鳩獵』 大場 弥平
『小銃史概観』 山室 泰一
『仔犬のひとりごと』 松下 正
『銃を食う錆に寄せて』 八尾 友治
『山鷓生態の一齣』 太田 元信
『運搬技の基礎（翻訳）』 藤本 道助
『鴨笛入門（翻訳）』 鈴木 孝道
『狙い越しの研究』 東原 正雄

昭和 31 年度（第 3 回）

『不発・雷管突破及び脱管等について』 伊藤 しん（?に眞） 吉
『新人爐辺獵談』 笠井 幸一
『猪鹿獵犬漫録』 古家弥知夫
『雉獵』 月岡 竹次
『火縄銃奇聞』 渡辺 文夫
『嗅覚考』 原 磊
『日本ビーグル私見』 田島 英雄

昭和 32 年度（第 4 回）

『あの山、この河』 館 孤松（康正）
『銃獵放談』 岡本 光長
『鹿獵』 松本 貞輔
『雉終獵記』 武田 理
『米国に於けるトライアルの心得』 寺岡五郎介
『山鳴獵』 白井 潮路
『野生鳥獣の環境の造成』 柿崎 洋一
『猪獵犬を得るまで』 真野 市郎
『足跡』 杉原 正夫
『高級銃の智識』 田中 一男
『獵犬の飼育・管理』 西 一郎
『嗅覚考』 松尾喜惣次

昭和 33 年度（第 5 回）

『ジャングル紳士録』 藤波 次郎
『米系犬の基礎訓練について』 磯田 正豪
『熊獵談』 千明市三郎
『獵犬の飼育管理』 松本 常久
『危険防止』 安池 俊介
『名犬一代』 江川 利光
『呵々寸言』 榊原 一男

昭和 34 年度（第 6 回）

『タイ国遠征記』 藤田 正男

『猪鹿猟雑感』銅前栄太郎
『トラップ射撃』鹿志村雪夫
『犬の心理とドッグ・センス』井上 秀雄
『アプレハンター犬を語る』八塚 剛
『谷中沼の鳥屋撃ち』岡部 柁雄
『雉猟のこつ』渡辺 文雄

昭和 35 年度 (第 7 回)

受賞者なし

昭和 36 年度 (第 8 回)

受賞者なし

昭和 37 年度 (第 9 回)

『猟犬一筋』藤岡 光子
『猟銃をめぐる随想』渡辺 富和
『三等ハンターと俳句』米沢吾亦紅
『判例拾読』細川彦太郎
『南アルプスの動物と狩猟』水口 勝平
『天城の御猟』飯塚 利八
『狩猟法改正への提言』山下 三郎
『霞ヶ浦猟の当り外れ』佐藤 昭信

昭和 38 年度 (第 10 回)

『エゾシカの生態と狩猟』斎藤 春雄
『日本の雉雑感』三島 冬嗣
『審査基準を巡る諸考察』永田 恒
『狩猟物語』中里 迪弥
『わが狩猟の記録』山口 武秀

昭和 39 年度 (第 11 回)

『紀州犬談義』川瀬 光男
『狩猟に関する法令違反について』長田 英雄
『夏にかかり易い猟犬の病気とその知識』辻川 達雄

昭和 40 年度 (第 12 回)

『怒りに狂う大熊との死闘』田中 釣一
『散弾銃とパターン』越後 太郎
『ゲームを大切にしよう』松野 包一
『猪猟備要』伊藤 由雄
『米国に於ける雉の養殖』正田 有事

昭和 41 年度 (第 13 回)

『続・道楽猟』田中 精次
『小寿鶏猟のすべて』廣末 實
『猟政の現状と対策』石橋 豊
『ナショナル準チャンピオンについて』岡野喜久磨
『クラス・ドッグを求めめるための努力』フレデリック・K・吉川

昭和 42 年度 (第 14 回)

『日本に於ける猟銃の変遷』岡本 光長

『漫画・ハンターおやじ』塚原平児朗
『統計から見た狩猟の実態とその将来』玄 元荘

昭和 43 年度 (第 15 回)

『動物物語』中里 迪弥
『猟政百年』江原 秀典
『亡き師の射法追想』笠井 幸一

昭和 44 年度 (第 16 回)

『「ここが云いたい聞きたい」を読んで』友田 安雄
『理想のバード・ドッグへの道』鈴木 則良
『英国猟犬の猟能』石橋徳次郎
『当世ハンター気質』羽鳥 肇

昭和 45 年度 (第 17 回)

『思い出の秘境』津久井英夫
『猟犬訓練の要点』石渡 啓一
『猟政上の問題点について』川村 道郎
『日高山脈の麓を追う』古屋 保元

昭和 46 年度 (第 18 回)

『ニュージーランド狩猟行』谷 正勝
『英国系猟犬の繁殖と訓練』光富英八郎

昭和 47 年度 (第 19 回)

『コジュケイ猟、バン猟』廣末 實
『狩猟余話』遊 翁
『用語と解説』永田 恒

昭和 48 年度 (第 20 回)

『旧満州の狩猟について』松本 貞輔
『品格向上への私の願望』白井 潮路
『猟犬愛情物語』松下 正

昭和 49 年度 (第 21 回)

『俗説再考』堀尾 茂
『ボルネオの動物達』藤波 次郎
『私のトライアル訓練法と実践訓』馬場 馨

昭和 50 年度 (第 22 回)

『ニュージーランドに鹿を追う』笹本 芳明
『ポインターとセター』柳沢 嘉男
『川尻の白鳥』小松崎秀穂

昭和 51 年度 (第 23 回)

『狩猟と射撃』北 晴夫
『クレー射撃』藤田 正男
『小説・秘境挽歌、試射の報酬』竹内 賢典

昭和 52 年度 (第 24 回)

『ライフル射撃競技回想記』猪熊 幸夫

『ハンターのためのナイフ・ガイド』赤津 孝夫
『幼い頃の思い出』高倉登喜夫

昭和 53 年度 (第 25 回)

『ソ連狩猟紀行』小宮 莊次郎
『初心者のためのコジュケイ猟』山下 三郎
『獣猟師』笠井 幸一

昭和 54 年度 (第 26 回)

『これからの鳥獣行政』江原 秀典
『赤城山麓西面におけるキジ猟の実際とキジ猟犬について』上山 光一
『仔犬期における社会化の重要性とその問題点について』武田 理

昭和 55 年度 (第 27 回)

『英ポインターの半世紀』小山 宏
『江戸時代の狩猟考』橋本 顕光
『わが狩猟回想記』藤波 健彰

昭和 56 年度 (第 28 回)

『鉄砲おやじ一代記』真貝 義昭
『狩猟の社会的立場』白井 邦彦
『銃砲の安全』伊藤 しん (ゞに眞) 吉
『獣医から見た猟犬の病気と治療』大塚 勝弘

昭和 57 年度 (第 29 回)

『イヌの嗅覚について』外崎 肇一
『英ポインターについての考察』石橋徳次郎
『美濃柴犬物語』石川 雅宥
『わが狩猟の思い出』下野 太郎

昭和 58 年度 (第 30 回)

『ライフルの正しい狙い方』今村 義逸
『シン狩り』秋月 寛
『シカが掘ったヒグマの穴』柳田 佳久
『愛犬家が知っておかなければならない病気と治療』小林 俊一

昭和 59 年度 (第 31 回)

『猟犬繁殖の理論と実際』田島 英雄
『雪中のヤマドリ猟』高原 康二
『装備についての最新情報と出猟準備』上田 剛

昭和 60 年度 (第 32 回)

『キタキツネとエキノコックス症』野村 梧郎
『猟犬を理解するために』廣末 實

昭和 61 年度 (第 33 回)

『田舎獵人雑記』坂本 和夫
『ビギナーに贈るエゾジカ猟入門』大崎 安美

昭和 62 年度 (第 34 回)

『標高 1,000 メートルの狩猟人生』藤井 邑知

『猟閑話』 小松崎秀穂

昭和 63 年度 (35 回)

『猟犬の改良と繁殖に思う』 安藤 四郎

『小説・狩猟の季節』 安藤 睦夫

『私のヤマドリ猟犬』 土井 善嗣

平成元年度 (第 36 回)

『狩猟鳥獣写真』 富士元盛二

『女性ハンドラー、アメリカに行く』 金剛 伸江

『外狩猟事情』 谷口 和美

平成 2 年度 (第 37 回)

『ノウサギ考』 大津 正英

『大物猟を成功させる道』 山本映之輔

平成 3 年度 (第 38 回)

『キジ撃ち五番勝負』 島崎やすし

平成 4 年度 (第 39 回)

『カナダの猟鳥』 Dr.JACK.S.小田部

『シベリア・ハンティング紀行』 永富 直治

平成 5 年度 (第 40 回)

『古式銃射撃振興のために』 出来 可也

『幻のチェッカー猟』 小田部 勝

平成 6 年度 (第 41 回)

『ビーグルトライアル考』 鈴木 修三

『大物四方山話』 藤原 経清 (白井 克)

『西郷南洲翁コボレ話』 山下 恒夫

平成 7 年度 (第 42 回)

『水鳥の鉛中毒』 Dr.JACK.S.小田部

『山彦』 山口 紘四

『鳥猟も本命のシカも予想外』 木下 馨

平成 8 年度 (第 43 回)

『世界の動物園』 米谷 佳晃

平成 9 年度 (第 44 回)

『ライフル実包のハンドロード』 今村 逸夫

『コジケイは何処へ消えたのか』 宇田川昌洋

平成 10 年度 (第 45 回)

『浮遊 (タンポポ) おやじの半省記』 菊地 常裕

『鳥猟犬の訓練』 佐々木善松

平成 11 年度 (第 46 回)

『猟四方山話』 江口 秋男

『六カ月の仔犬が主役』 深谷 智行

『大物獵への道』藤原 経清（白井 克）

平成 12 年度（第 47 回）

『ブリタニー・スパニエル』梅澤 皓

『QUACK』小松崎秀穂

平成 13 年度（第 48 回）

『鉄砲雑話』岩堂 憲人

『懐顧録・鉄砲撃ち今昔』内山 秀人

平成 14 年度（第 49 回）

『GSP（ジャーマン・ショートヘア・ポインター）の魅力』田中 至

平成 15 年度（第 50 回）

『ビーグル大会に初参加する貴方へ他』石渡 武司

平成 16 年度（第 51 回）

『北海道発・非鉛ライフル弾を考える』沖 慶一郎

平成 17 年度（第 52 回）

『獵歴』井上 正範

平成 18 年度（第 53 回）

『鳥獵一筋』取内九州男

平成 19 年度（第 54 回）

『我が獵犬人生に悔いなし』明神 進

『老獵師の猪狩り語録』片桐文司郎